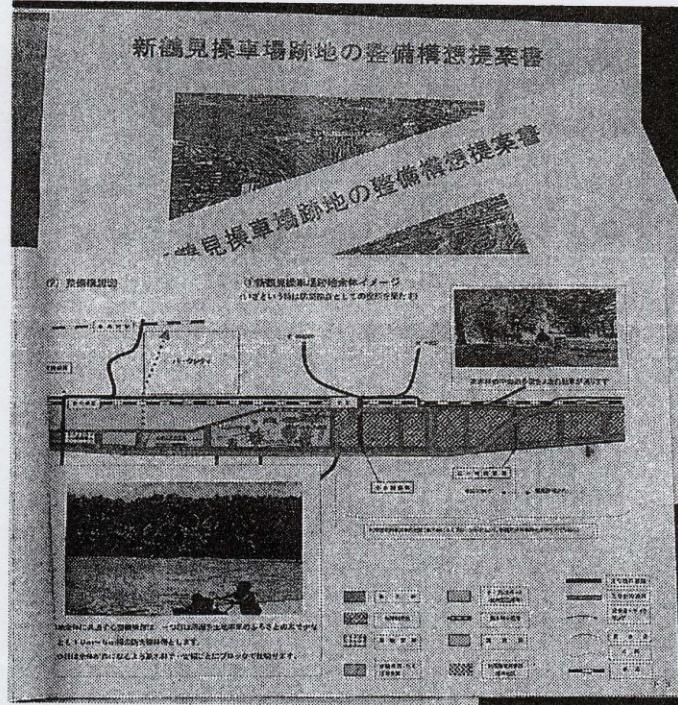


都市緑地と防災拠点に



幸まちづくり研究会がまとめた「新鶴見操車場跡地の整備構想提案書」

具体的には、同跡地を幅五十㍍にわたる防火樹林帯で囲み、市民利用施設用地は、防災公園の機能を持つたすらざ広場や自然観察ができる雑木林などの植生で「幸せの森」を整備することも提案した。同研究会は「これまで多くの市民がさまざまな意見や要望を出しているが、行政からは将来の土地利用方針が明確に示されていない。提案書をたたき台に、市民を交えた討議の場を設けて検討してほしい」(千葉代表)と話している。

川崎市幸区の新鶴見操車場跡地の整備について、市民グループ「幸まちづくり研究会」(千葉美佐子代表)は同地区を都市緑地と防災拠点に位置付けた「整備構想提案書」をまとめ、このほど川崎市に提出した。

(熊坂 哲司)

まちづくりの実践を目指し、これまでの市民の意見を整理して「地区力」をまとめ、二回のフーラムで市民の声を聞いて提案書をまとめた。同操車場跡地は一九八四年に廃止。約四十二㌶の土地活用をめぐり、市が市民利用施設として大規模ドーム球場整備計画を打ち出し、バブル崩壊のあおりで実現しなかった経緯がある。現在は暫定利用として、

提案書は、幸区は市内でも公園緑地が少ない地域で、あることや大規模地震際には幸区など市南部地区で避難場所が不足することを挙げて、都市緑地と防災の視点で活用するよう求めている。

市民グループ

**川崎・幸区の新鶴見操車場跡地
市に整備構想提案書**

神奈川新聞